

平成27年度 第1回 横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成27年6月4日（木） 10時00分～11時30分
- 2 場 所 横浜市芸能センター（横浜にぎわい座）小ホール
- 3 出席者 上杉 幸雄 委員、西田 由紀子 委員、藤崎 晴彦 委員
- 4 欠席者 垣内 恵美子 委員
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	(1)平成26年度業務評価関係資料の説明 (2)指定管理者へのヒアリング
委員意見等	1 開会 (1) 定足数の確認 委員数4名のうち3名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。  (2) 本委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき、公開とした。  (3) 委員長の互選について 委員の互選により上杉委員を委員長に選出した。  2 評価関係書類について 事務局から、評価に使う資料、評価方法について説明。  3 指定管理者実績説明 指定管理者から、平成26年度事業実績として、「多彩な経常事業の安定的な開催」、「東アジア文化都市2014横浜事業企画制作」、「アウトリーチや他施設との連携の強化」、「収支の健全化」などの観点から、自主事業、運営、管理、収支予算などについて説明。  4 指定管理者へのヒアリング 〈質疑〉 (委員)

市民活動支援の取組として、市民からの相談やコーディネートなどのサポートを行う際の担当窓口は、どのような役割分担になっているのか。

(指定管理者)

公演の企画に関する相談は事業担当が対応し、アウトリーチとして事業化される場合もある。施設利用の相談は貸館担当が対応している。

(委員)

貸館のサポートは、丁寧に対応すれば、稼働率の向上にもつながる。

(委員)

自主公演の入場者数について、年間では目標を上回っているが、月ごとでは年末年始が非常に多く年度前半は平均を下回っているなど、ばらつきがある。このような傾向をどのように分析しているのか。

(指定管理者)

団体客の動向が大きく影響する。団体は、年度が始まってからその年の活動を考え始めるため、年度初めは団体客が少なく、年度後半、特に年度末にかけて駆け込み需要が出てくる。一方、年末年始や人気のある演目に一般の個人客が集中する。

(委員)

広報について、確実に相手に情報が届く媒体というところが考えられるのか。

(指定管理者)

常連客には来館時に手に取るチラシの効果が大きい。ネット世代より高い年齢層には、FAX サービスが効果的である。逆ににぎわい座を知らない人には、WEB 広報が中心となる。昨年から取り組んだ動画配信は youtube にリンクを貼る形で行っており、そこから情報が広がることも考えられる。また、アウトリーチとして行った“街コン”や旅行会社提携の“歩くツアー”とのコラボなども、普段にぎわい座に来ない人の取り込みに効果があった。

(委員)

野毛まちなかキャンパスは、街と大学とにぎわい座の3者が協力して“この街の中で一緒に創っている”ことをもっと前面に打ち出していくと良い。

(委員)

収支プラスになったのは良いが、支出で人件費を大きく削減したのは、少々心配になる。何か理由があるのか。

(指定管理者)

年度当初に職員の配置変更をした結果である。

この3年間1千万超の赤字が続いたため、26年度は収支の安定を第一に考え、人員調整で黒字化させたが、今後このままで良いとは考えていない。

(委員)

坂あがりスカラシップで支援している2名は、どのような基準で選んでいるのか。

(指定管理者)

継続支援の方は演劇、新規支援はコンテンポラリーダンスの方。急な坂スタジオとSTスポットという小演劇・ダンス専門施設との連携事業のため、この

ような人選となっている。

(委員)

事業収支はどの項目を比較すれば良いのか。また、事業に関する職員の人件費は事業費に計上されているのか、人件費なのか。

(指定管理者)

基本的には事業収入と事業支出を比較してほしい。事業に関する人件費は、職員については人件費に、企画コーディネーターや外部委託は事業費に計上している。

(委員)

空調運用の工夫について、どのくらいの効果があったのか。

(指定管理者)

使用量で1割程度削減した。公演や利用の状況を設備運転員と共有し、最適な運転を心がけながら節約した。

(委員)

小学校の落語体験プログラムについて、(給食までに帰るという理由で)開催時間を午前中に限定するため、近隣の西区と中区の学校しか参加できないのは、非常にもったいない。遠方の学校も参加できるように、時間と範囲を広げるべき。次の指定期間も含めた課題としてぜひ取り組んでほしい。

(指定管理者)

寄席体験プログラムは無料であり、別途、学校側の予算で、中学校が有名会を観覧するなどの個別の取組は行われている。寄席体験プログラムの拡充は難しい面がある。

(委員)

公演を見に来た客が、次の公演を申し込みたそうにしていたのだが、まだチケット販売前のため申し込めず、残念そうに帰って行ったことがあった。せっかく次も来たいと思っているのに、繋ぎとめる方法は考えられないか。

(指定管理者)

公演によっては、2か月前からの一般販売より早く先行販売を行う例はあるが、公演決定時期との連動となるため、ご案内が難しい面はある。

## 5 総括

今回のヒアリング及び、26年度内の事業視察を元に、次回委員会では、外部評価について審議する。